

厚生労働科学研究費補助金（認知症対策総合研究事業）

分担研究報告書

## BPSD の予防法と発現機序に基づいた治療法・対応法の開発研究

### BPSD を軽減・予防するための介護サービスの検討

研究分担者 遠藤英俊

国立長寿医療研究センター 内科総合診療部長

#### 研究要旨

**研究目的:** 本研究の目的は BPSD を軽減・予防するための介護サービスを検討することであり、「パーソンセンタードケア」に基づく標準的な認知症のケアの向上と確立を行うことである。

**研究方法:** 初年度はタクティールケアの有用性について DCM（認知症ケアマッピング）を用いて検討する。対象は認知症の BPSD(行動心理症状)のある人を対象にする。DCM とはイギリスから導入され、ケアマッパーが認知症の方を 5 分毎に 6 時間評価することで、認知症の人の行動パターンやケアの介入、関わりを細かく評価・調査することができる方法である。

**研究結果:** 本研究においてタクティールケアを用いて科学的根拠を検証し、BPSD が軽減できることが期待される。そして介護負担を軽減し、認知症の人の生活の質を向上させることが可能となる。次年度は症例を増加させ、同時に普及啓発のための、研修体制を構築する。

**まとめ:** オレンジプランなどの認知症政策において、本研究の成果が家族教室のプログラムや地域包括ケアや認知症カフェなどの活動に有効であることを調査する。最終年度では研修や技術支援を行い、認知症ケアの標準化と普及を行うこととする。

研究協力者氏名・所属施設名及び職名

遠藤邦幸 名古屋第二赤十字病院 医師

## A. 研究目的

本研究の目的は BPSD を軽減・予防するための介護サービスの検討することである。介護サービス種類の検討としては、ケアの質の評価が重要であるが、認知症ケアに特化した認知症グループホーム、ユニットケア、小規模多機能などを中心に検討する。第二に介護サービスにおけるケアの内容を検討する。タクティールケア、スピリチュアルケアなどの適切なケアの提供を科学的根拠をもとに検討する。第三にはケアの改善のための人材育成・教育を検討する。認知症認定看護師、認知症介護指導者などの現状を検討し、BPSD の予防・改善に適正なケアの検討を行うこととする。

## B. 研究方法

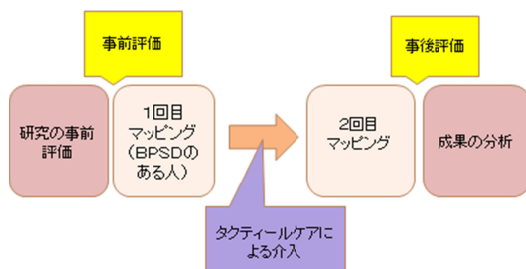
研究計画としては、BPSD のある認知症のある人を対象に、タクティールケアの短期的効果と長期的効果について検討する。認知症ケアマッピングによって 5 分毎に 6 時間観察を行い、その間の BPSD を観察し、WIB 値の定量化を行う。また前後で NPI を評価する。この際 BPSD のある人 30 名を対象とし、タクティールケアをするグループと日常的なケアを行う 2 つのグループに分け、ランダムコントロールスタディを行うこととする。2 つのグループ間で比較し、効果を検証する（研究デザイン図参照）。その有用性を検討し、その後研修体系を検討し、本ケアのリーダーを養成し、認知症ケアの標準化と普及を行う。普及にあたって、タクティールケアや認知症ケアの理念を市民向けにわかりやすい動画（DVD）の作成を行う。DVD は普及啓発にも利用できるものを作成し、研究参加者の共通の理解を深めるためのマニュアル、研修会や家族教室で利用する。

**（倫理面への配慮）**本研究は人を対象とした臨床的研究である。主に観察手法で評価をするが、国立長寿医療研究センターの倫理・利益相反委員会に申請し、許可を得たのちに研究を行う予定である。患者の人権に配慮し、本人または家族の同意を得て行う。

## C. 研究結果

タクティールケアについて、文献検索を行い、施術後の気分や変化を分析した定性的研究が存在したが、BPSD を軽減するデータはなく、今後の BPSD の軽減予防に関するデータは貴重である。今後介護施設での疾患別ケアについて、分析予定である。

## 研究デザイン



## D. 考察

本研究はケアや非薬物療法による BPSD の軽減・予防に関するものであり、科学的根拠を検討するものである。その成果は認知症ケアの標準化や普遍化につながる可能性がある。

## E. 結論

オレンジプランなどの認知症政策において、本研究の成果が家族教室のプログラムや地域包括ケアや認知症カフェなどの活動に有効であることを調査する。最終年度では研修や技術支援を行い、認知症ケアの標準化と普及を行うこととする。

## F. 健康危険情報

また患者の不利益や危険が予想される場合には行わないか、または研究の途中であっても中止する。研究に参加しない場合でも、患者さんには不利益を被らないように配慮する。

## G. 研究発表

### 1. 論文発表

1) 遠藤英俊 アルツハイマー型認知症治療薬の薬剤選択基準 新薬と臨床 62(1),2013

2) Masahiro Akishita, Shinya Ishii, Taro Kojima, Koichi Kozaki, Masafumi Kuzuya, Hidenori Arai, Hiroyuki Arai, Masato Eto, Ryutaro Takahashi, Hidetoshi Endo, Shigeo Horie, Kazuhiko Ezawa, Shuji Kawai, Yozo Takehisa, Hiroshi Mikami, Shogo Takegawa, Akira Morita, Minoru Kamata, Yasuyoshi Ouchi, Kenji Toba Priorities of Health Care Outcomes for the Elderly JAMDA 14(7):479-484,2013

3) Hiroyuki Umegaki, Madoka Yanagawa, Zen Nonogaki, Hirotaka Nakashima, Masafumi Kuzuya, Hidetoshi Endo Burden reduction of caregivers for users of care services provided by the public long-term care insurance system in Japan Archives of Gerontology and Geriatrics 58:130-133,2014

4) Kenji Toba, Yu Nakamura, Hidetoshi Endo, Jiro Okochi, Yukiko Tanaka, Chiyako Inaniwa, Akira Takahashi, Naoko Tsunoda, Kentaro Higashi, Motoharu Hirai, Hiroyuki

Hirakawa, Shizuru Yamada, Yohko Maki, Tomoharu Yamaguchi and Haruyasu Yamaguchi  
Intensive rehabilitation for dementia improved cognitive function and reduced  
behavioral disturbance in geriatric health service facilities in Japan Geriatr  
Gerontol Int 2013 May 6.

## 2. 学会発表

1) 梅本充子、神保太樹、柴田悦代、遠藤英俊 (内科総合診療部) 地域在住高齢者  
における匂いを使った回想法の有効性 第28回日本老年精神医学会 2013年6月5日,  
大阪府

2) Shohei Kato, Hidetoshi Endo, Risako Nagata, Takuto Sakuma, Keita Watanabe .  
Toward Personalized Cognitive Training for Elderly with Mild Cognitive Impairment  
Using Cerebral Blood Flow Activation The 27th Annual Conference of Japanese Society  
for Artificial Intelligence(人工知能学会第27回全国大会)Toyama, June 4-7, 2013  
Session: IOS-1 COGNITIVE TRAINING AND ASSISTIVE TECHNOLOGY FOR AGING

3) 清家理、住垣千恵子、武田章敬、櫻井孝、遠藤英俊、鳥羽研二 . 認知症介護当事  
者に対する「介護者支援人材育成プログラム」の効果測定研究 -内発的動機づけに主眼  
を置いた「家族教室アドバンスコース」からの考察- . 第14回日本認知症ケア学会大  
会, 2013年6月2日, 福岡県

4) Shohei Kato, Hidetoshi Endo, Akira Homma, Takuto Sakuma, Keita Watanabe .  
Early Detection of Cognitive Impairment in the Elderly Based on Bayesian Mining  
Using Speech Prosody and Cerebral Blood Flow Activation The 35th Annual  
International Conference of the IEEE Engineering in Medicine and Biology Society  
(EMBC '13) July 4-7, 2013, Osaka, Japan

## H. 知的財産権の出願・登録状況

### 1. 特許取得

なし

### 2. 実用新案登録

なし

### 3. その他

なし